

所属・資格 社会福祉学科・助教

申請者氏名 久保田 純

研究課題		生活困窮など多様な課題を抱えるクライアントに対するソーシャルワーク実践に関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>現代社会においては少子高齢化の進行や価値・ライフスタイルの多様化などの社会構造の変化を背景に、生活困窮・虐待・引きこもりなど多種多様な課題を抱えたクライアントが増えてきており、そのようなクライアントに対する有効なソーシャルワーク実践理論を構築していくことは喫緊の課題となっている。</p> <p>本研究は、そのような生活困窮などの多様な課題を抱えるクライアントに対するソーシャルワーク実践に関して、グランデッドセオリーや事例研究法などの質的研究を軸としながら「多様な意味世界における『利用者主体』を実現するソーシャルワーク」についての実践理論の構築を目的とする。ソーシャルワークの実践現場との共同研究などを行いながら、実際の支援事例についてグランデッドセオリーや事例研究法を用いて、有用なソーシャルワーク実践理論の構築や施策制度の検証・創出などを行なっていく。</p>
	研究の 結果	<p>多様な課題を抱えるクライアントに対して「利用者主体」を実現する有用なソーシャルワークの実践モデルの構築を目指すため、これまでの研究で生成された実践モデルの仮説である「『揺らぎ』に基づく合意形成」に関して、事例研究を用いてその効果を明らかにすることで有用性の確認を目指した。</p> <p>事例研究では、Yin (1994) の事例研究のResearch Designを参照とし、単一事例による事例研究による効果検証を行った。事例は理論的サンプリングにより、研究者自身が支援を行った「養育不安」「前夫や原家族との関係不調」「貧困」などの課題を抱えた母子家庭への支援ケースを選出した。</p> <p>事例検討の結果、事例において「『揺らぎ』に基づく合意形成」による協働実践を行うことで、「利用者主体」を包有した「合意形成」をすることが可能となり、ソーシャルワーク実践において「『揺らぎ』に基づく合意形成」が多様な課題を抱えるクライアントに対する有用な実践モデルである可能性が示唆された。</p>
	研究の 考察 ・ 反省	<p>今年度の事例研究により、これまで生成してきた仮説「『揺らぎ』に基づく合意形成」について、有用な実践モデルである可能性が示された点については意義があるものとする。</p> <p>一方で、事例研究は一般化が難しい研究方法であることもふまえて、今後は他の実践者や他の場面も含めたより多くの事例検討をおこない、「『揺らぎ』に基づく合意形成」のさらなる精緻化・修正作業を続けて妥当性を高めていくことが必要である。そうなれば、多様な課題を抱えるクライアントに対するソーシャルワーク実践において「『揺らぎ』に基づく合意形成」をさらに有用な実践モデルにすることが可能となると考えられる。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>【研究成果物】 「ソーシャルワーク実践における有用な実践モデルの構築-事例研究における仮説『揺らぎ』に基づく合意形成」の効果検証- 『社会学論叢』 196,73-86. 発行年月日：2019年12月25日発行 発行者：日本大学社会学会</p>	